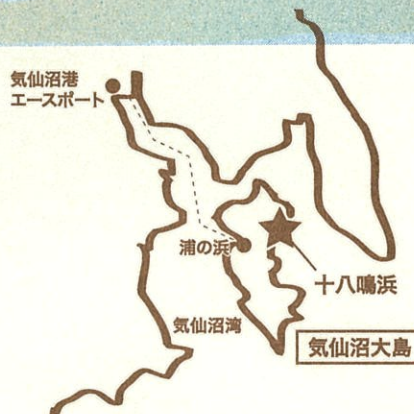


くぐなりはま
気仙沼大島～十八鳴浜～
 kesen-numa oshima - kugunari hama -

気仙沼市街地の対岸正面に位置し、気仙沼湾の入口にある離島。作家の水上不二によって「大島よ永遠にみどりの真珠であれ」とたたえられた、自然豊かな美しい島です。本土とは大島瀬戸によって隔てられていますが、最も狭い場所で230mしか離れていません。大島の最高点である亀山の頂上には希少な「緑の桜」が自生し、十八鳴浜(くぐなりはま)という、歩くとキュッキュッと音が鳴る天然記念物の海岸が広がります。また、気仙沼湾の入口に大島があることで湾内は常に穏やかであり、気仙沼漁港は天然の良港となっているため、「気仙沼の防波堤」とも呼ばれています。



●気仙沼大島への行き方●

気仙沼港の「エースポート」より
 大島汽船「浦の浜行き」客船で25分

運賃 大人 往復820円 片道410円
 小人 往復400円 片道200円

vol.3 踏み出す幸せ 十八鳴浜の旅

「恋人」は気仙沼発祥？！

「砂の上に わが恋人の 名をかけば 波のよせきて かげもとどめず」
 「恋人」という言葉を近代短歌史上最初に使ったとされているのが
 なんと気仙沼出身の国文学者、落合直文なのです！

今回は十八鳴浜をご紹介します。

おちあい なおひみ
 落合直文 (1861~1903)

十二代 鮎貝太郎平盛房の次男として出生。後に仙台中教院主・落合直亮の養子となり、伊勢神宮教院において国学、漢籍を学びました。皇典講究所、第一高等中学校、早稲田専門学校で国語学、国文学を講ずるとともに「日本文学全書」「ことばの泉」など多くの名著を上梓した、明治を代表する国文学者です。

煙雲館の庭園内には、落合直文の詠んだ「置くところ よろしきを得て おきおけば 皆おもしろし 庭の庭石」という、『適材適所』の教育用語に例えられる歌の歌碑があります。

底上げYouth

宮城県気仙沼市で2012年9月に結成した、地元の高校生による有志団体。現在は24人で活動しています。気仙沼のまちづくりを観光という切り口で考え、まちを盛り上げると同時に、参加した高校生自身が気仙沼の良さに気付く、地元をもっと好きになるような、楽しい話し合いの場を作る活動を行っています。

恋人にまつわる逸話や美しい景色など、実はたくさんの「恋人スポット」を持つ気仙沼のまち。「港と海産物のまち・気仙沼」という今までのイメージだけでなく「恋人のまち・気仙沼」という新しい側面を知ってもらいたい！」という思いで紹介してゆきます。

新たな気仙沼の恋人スポットをどんどん発掘中です！vol.4もお楽しみに！

〈協力〉気仙沼観光コンベンション協会 気仙沼市階上観光協会 煙雲館 松岩寺 NPO法人底上げ
 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン x さなぶりファンド こども☆はぐみファンド支援事業
 〈執筆・編集〉底上げYouth 〈挿絵〉小野寺 彬 〈デザイン〉海岸 真紀子

なり♡恋 ～二人で奏でる九歩の幸せ～

今日は雲ちゃんの誕生日。コッコツためたバイト代で雲ちゃんに指輪をプレゼントすっべと思ってる。

今日は大島でデート！大島は「緑の真珠」とも呼ばれていて、実は雲ちゃんの誕生石もパール。これは最高のロケーションだ！僕たちは大島行きの船のチケットを買いに売り場へと向かった。

「チケット売り場にて」
 「大島のおすすすめスポットってどこですか？」

「コッコツ十八鳴浜がな」
 あそここの鳴き砂は踏むと「クツクツ」って音がすんのつぎ「デートには「コッコツ」しかない！なーんでな」

「は、はあ(苦笑)では、十八鳴浜に行ってみます。ありがとうございます。さいました！」
 「あつ、ウミネコに気をつけられいよつて、行つてしまつたが…」

爽やかな風の中、僕たちはフェリーのデッキで海を眺めていた。
 「指輪を眺める煙男」
 「これ、きつと雲ちゃん喜んでくれるよね。雲ちゃんの牡蠣のように喜ぶ姿を思うとホント嬉しくなっちゃうな。よし、頑張ろう!! あ、なんか珍しいピンクのウミネコがいるな」
 「あ、ウミネコが指輪は？」
 「クークー」
 「あつ！」

「あつ！」
 (つてうおおおおお!!ピンクのウミネコに指輪をとられてしまったあああ!!)

「煙男くんどうしたの？」
 「なな、なんでもないよ雲ちゃん」
 (シヨックだけどデートをたのしまなきや…)

「大島にて」
 さつそく僕たちは十八鳴浜に向かつて歩いてた。

「大島つて自然が豊かで空気もおいしいんだな。あれ？雲ちゃん？靴擦れしてない？パンソーコあるよ！疲れたよね、もう少しゆっくり歩こうか。」
 「煙男くん、ありがとう。」
 「私、いつも煙男くんにいろいろしてもらつてばつかりだわ…」

「手、繋ご。」
 「う、うん(照)」

僕たちは十八鳴浜のキレイな砂浜にたどり着いた。
 「わく！キレイな砂浜ね！」
 雲ちゃんはずっと感動している。僕のセレクトはやっぱりいいがった。

「雲ちゃん、ここはね、二人で手を繋いで九歩一緒に歩くと、お互い素直になれるつていうジンクスがあるんだよ。」
 「へえ！ステキね！じゃあ行きましま、せいの。」

「あれ？だれか倒れてる！ここでちよつと待つて！」
 「あ…手、そんな…」
 「う…。ここは？」
 「大丈夫ですか?!!」
 「…せつかく手、繋げてたのに…」

「大丈夫ですか?!!」
 「…せつかく手、繋げてたのに…」

「大丈夫ですか?!!」
 「…せつかく手、繋げてたのに…」



vol.4
 に続く



底上げYouthの最新情報は
 Facebookページから!→
 【お問い合わせ】
 電話: 0226-25-9670
 (NPO法人底上げ)
 メール: info@sokoage.org



佐々木 雲
 6月12日(恋人の日)生まれのA型。
 料理が趣味。
 好きな景色は気仙沼の海。
 現在、気仙沼の郷土料理を一生懸命勉強中。



小野寺 煙男
 5月9日(告白の日)生まれのO型。
 趣味はサッカー。好きな食べ物は雲ちゃんが作った塩むすび。
 爽やかな笑顔は「憎殺キラスマイル」と呼ばれているが、今回はそれが原因で…本人は無自覚。

●煙男
 ●雲
 ●受付の人
 ●ウミネコ
 ●ピンクの?